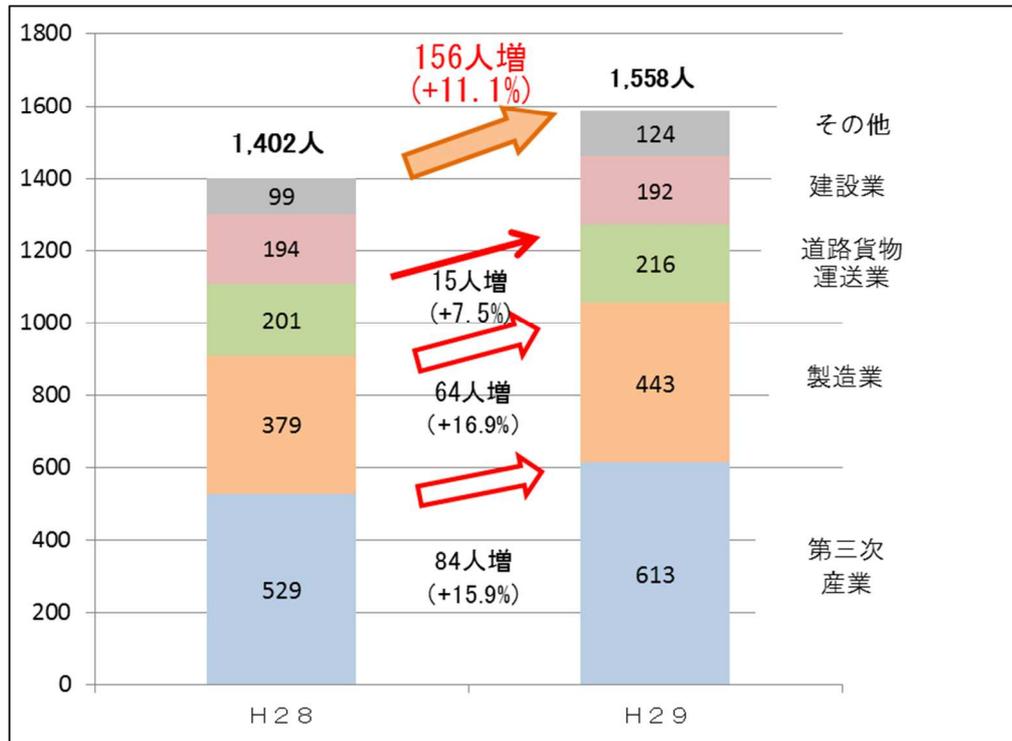


平成 29 年における労働災害（速報値）の概要

1 死傷災害

- (1) 平成 29 年は 10 月末現在 1,558 人の死傷災害が発生し、昨年同時期と比べると **156 人(11.1%)の増加**となっている。
- (2) **製造業** 64 人 (16.9%)、**第三次産業** 84 人 (15.9%)が大幅増加しており、これら業種の増加が、全業種の増加の 9 割余りを占めている。



- (3) 製造業では「機械器具製造業」(+37.5%)「金属製品製造業」(+22.8%)、第三次産業では「小売業」(+19.1%)が大きく増加している。

年別	27年	28年	29年
製造業	359	379	443
うち 機械器具	55	56	77
うち 金属製品	86	92	113
第三次産業	528	529	613
うち 小売業	145	136	162

21人増加
21人増加
26人増加

- (4) 災害の形態別にみると、転倒災害が 293 人(19%)と最も多くなっている。転倒災害は商業、製造業、運輸交通業、保健衛生業で多く発生している。

次いで、墜落・転落が 264 人(17%)、はさまれ等が 235 人(15%)となっている。墜落・転落災害は建設業、運輸交通業で、はさまれ等災害

は製造業で多く発生している。なお、はさまれ等災害は昨年同期に比べ63人(37%)増加している。

(5) 経験年数別では、経験の短い労働者の災害が大幅に増加している。

経験年数別労働災害 10月末の比較

	27年	28年	29年	前年比	前年比(%)
5年未満	684	654	812	158	24%
うち1年未満	291	255	318	63	25%
5年～9年	242	241	248	7	3%
10年以上	478	506	498	-8	-2%

(6) 年齢別では、若い世代と70歳以上の高齢者の労働災害が大きく増加している。

事故の型別で見ると、29歳以下では、「はさまれ」、「切れ」など機械の取り扱い、作業方法に関する災害が多い。

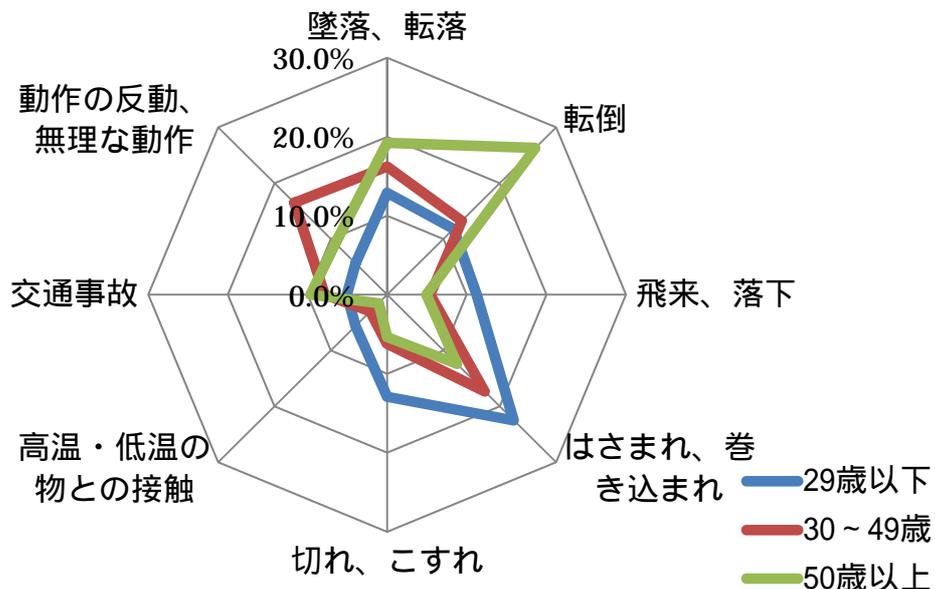
50歳以上では、「転倒」、「墜落」など身体能力にかかる災害が多い。

70歳以上の高齢者は「転倒」に加え「交通事故」による災害が多い。

年齢別労働災害 10月末の比較

	27年	28年	29年	前年比	前年比(%)
29歳以下	220	216	273	57	26%
30歳～49歳	555	540	581	41	8%
50歳以上	629	644	704	60	9%
うち70歳以上	49	55	72	17	31%

年齢別労働災害の特徴



(7) 2件以上労働災害を発生している事業場が増加している。

年別複数災害発生事業場及び死傷者数 9月末の比較

	27年	28年	29年	
労働災害で4日以上休業した死傷者数(人)	1242	1225	1366	141人増加
労働災害を2件以上発生させた事業場数	111	100	147	
その死傷者数(人)	256	228	329	101人増加

統計の取り方によって、合計値に差が生じている箇所があります。

2 死亡災害

- (1) 死亡災害は11月20日現在で18人と、昨年同時期に比べ8人増となっている。
- (2) 業種別に見ると、製造業5人(+3人)、第三次産業4人(+2人)、道路貨物運送業3人(+1人)、鉱業3人(+3人)、建設業3人(-1人)となっている。



[最近の死亡災害事例]

発生月	業種	発生概要
10月	製造業	金属製パイプを自動で供給する機械の点検中、機械に頭部付近をはさまれたもの。
10月	鉱業	ドラグショベルのバケットに履帯を掛けて走行中、他の作業員が近づいてきたため、走行を停止したところ、反動で履帯が落下、作業員に激突したもの。